

■新田義貞 武将。鎌倉幕府を滅亡させる栄光を担い、新政権を開く機会を得るも、足利尊氏との戦いで敗死。
にったよしさだ
後二条天皇・1301 = 生、朝氏の子。新田氏の嫡流。

義貞の社会的地位は、新田氏の鎌倉幕府下での立場を反映して、同族の足利尊氏に比べて低かった。

・ ・ ・ ・ ・ 1310 = 9歳 :

この頃、家督を継ぎ、上野国新田荘を本拠地とする新田一族の惣領になった。

後醍醐天皇・1318 = 17歳 :
・ ・ ・ ・ ・ 1319 = 18歳 :

正中の変・ ・ 1324 = 23歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1328 = 27歳 :

元弘の変・ ・ 1331 = 30歳 : *元弘の乱に際しては当初幕府軍に属して、
・ ・ ・ ・ ・ 1332 = 31歳 : 楠木正成の千早城を攻めたが、護良親王の令旨をうけたため途中で兵を収め本拠に帰る。
鎌倉幕府滅亡1333 = 32歳 : *上野守護代長崎四郎左衛門尉を討ち、同国世良田に軍陣をしく。さらに大軍を率いて鎌倉に迫り、武蔵分
倍河原に北条泰家を破ったのち、鎌倉を陥れ、北条高時以下を自刃させ、鎌倉幕府は滅亡するが、まもなく
新田・足利の主導権争いが始まり、
中先代の乱・1335 = 34歳 : 敗れた義貞は鎌倉を放棄して京都に入る。武政府下では、義貞は上野介・越後守・播磨守、越後守護・播
磨守護に任ぜられたり、一門武士を多く配した武者所を統括するなど、新政府に参加した武士の中でもことに
重要な役割を果たすが、尊氏との対立は、中先代の乱鎮定を機に早くも表面化し、ついには尊氏・直義の
官爵を削る事態を招いた。建武新政は実質的に崩れ、新田・足利の武門どうしの争いは南北朝対立の導火線
の一つとなる。尊氏追討に出陣するが、箱根竹ノ下に敗れ、足利軍の入京をゆるした。やがて尊氏追討のため
奥州から西上した北畠顕家軍と合力して、
南北朝分裂・1336 = 35歳 : *足利軍を九州へ去らせたが、後醍醐天皇方武将たちの戦術上の足なみがそろわなかったため、入洛した足
利軍を迎えうつ合戦で、天皇方は多大の犠牲を払った。尊氏が持明院統の光明天皇を擁立したため南北朝が
並立。義貞は北国に南軍の拠点を築くべく恒良・尊良両親王を奉じて越前に下り、金崎城、
・ ・ ・ ・ ・ 1337 = 36歳 : 袖山城を根城に力戦を重ねたが、
足利尊氏将軍1338 = 37歳 : 藤島の戦いで戦死した。